国立大学法人熊本大学

熊本大学
Kumamoto University

平成２７年１０月２６日

報道機関各位

熊 本 大 学

大学院社会文化科学研究科　第３回公共政策セミナーのお知らせ

「まいにち、できることして、生きていく」

―「あたりまえの日常」を取り戻す「復興」を目指して―

熊本大学大学院社会文化科学研究科は、福島原発事故で今なお避難生活を送る飯舘村の高橋トク子さん（農業）と、そうした人たちを支える活動をしている大黒太郎氏（福島大学准教授）をお招きして第３回公共政策セミナー「『まいにち、できることして、生きていく』―『あたりまえの日常』を取り戻す『復興』を目指して―」を開催いたします。

原発事故は、それまであった「あたりまえの日常」を奪い、今なお、多くの人たちに仮設住宅などで暮らすことを余儀なくさせています。本セミナーの表題である「まいにち、できることして、生きていく」は、５年目の避難生活を送る飯舘村の人たちが、元気を失ってしまわないように、お互いに呼びかけ合う言葉となっている「まいにち、できることして、生きていこう」からつけています。セミナーでは、困難な中にあっても、畑を耕し、いつものように梅干しや漬け物をつくり、毎日自分にできることして生きている飯舘村の人たちの、静かな声に、耳を傾けたいと思います。

広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしくお願いいたします。

記

【日　　時】平成２７年１１月６日（金）14：30～16：00
【場　　所】熊本大学　文・法学部棟　２階　共用会議室（熊本市黒髪２丁目 40 番１号）
【対　　象】一般市民（興味があるかたはどなたでも）
【参 加 費】無料
【申込方法】事前申込み不要

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。
http://www.kumamoto-u.ac.jp/event/zinbun/20151106koukyou

【お問い合わせ先】
熊本大学大学院　社会文化科学研究科
担当：社会人大学院教育支援センター
TEL：096-342-2390

熊本大学大学院社会文化科学研究科　第3回公共政策セミナー

まいにち、できることして、生(い)きていく
―「あたりまえの日常」を取り戻す「復興」を目指して―

福島県飯舘村は、2011年3月の福島原発事故で全村避難を強いられました。
原発事故は、それまであった「あたりまえの日常」を奪い、今なお、村の人たちに仮設住宅などで暮らすことを余儀なくさせています。
そうしたなかで作成された2015年の飯舘村のカレンダーには、その表紙に次のような言葉が載っています。
「まいにち、できることして、いきていこう」。
頭文字をとると、「ま・で・い」となり、「丁寧に」「つつましく」「心を込めて」といった意味を表す方言になります。今、「までい」を織り込んだこの言葉は、5年目の避難生活を送る村の人たちが、元気を失ってしまわないように、お互いに呼びかけ合う言葉となっています。

「まいにち、できることして、生きていく」
故郷を離れた避難生活のなかで、どうすれば、元気と希望を失わずに生きていけるのでしょうか。
このセミナーでは、本当に困難ななかでも、畑を耕し、までいに梅干しや漬け物をつくり、毎日自分にできることをして生きている飯舘村の人たちの、静かで穏やかな声に、耳を傾けたいと思います。

話をしてくださる方　**高橋トク子さん**

飯舘村生まれ。農業。震災前から農産加工品であるキムチづくりの名人として知られる。震災後も阿武隈地域の女性農業者たちによる「食と農」の復興事業「かーちゃんの力・プロジェクト」に加わり、自分のペースで農業を再開し、農産加工品を作り続けている。

コーディネーター　**大黒太郎さん**

香川県生まれ。福島大学行政政策学類准教授。専門はドイツ・オーストリアの政党政治。震災後、飯舘中学校の生徒のドイツ研修旅行事業、「かーちゃんの力・プロジェクト」、地域コミュニティの維持・再生を目指した学習講座「ふるさと学級いいたて」の企画・運営に関わるなどしている。

司会　奥住弘久　（　熊本大学大学院社会文化科学研究科　教授　）

※ご来場の際は、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします

日時　2015年11月6日(金)　14:30～16:00

場所　熊本大学　黒髪北キャンパス

文・法学部棟2階　**共用会議室**

事前申込不要・参加費無料

【お問い合わせ】
熊本大学大学院社会文化科学研究科
社会人大学院教育支援センター
Tel/Fax:096-342-2390　E-mail:fu11102@kumamoto-u.ac.jp

主催：熊本大学大学院社会文化科学研究科

Kumamoto University